

特集「第2回大東文化大学看護学会総会」

特集にあたって

大東文化大学看護学ジャーナル・編集委員長

北田 志郎

2019年6月29日(土)、大東文化大学東松山キャンパス60周年記念講堂において、杉森裕樹看護学科主任を大会長とした第2回大東文化大学看護学会総会が開催された。第1部総会に引き続き、第2部講演会が「救急医療における看護の役割を考える」をテーマとして行われた。講演者と演題は以下の通りである。

- ・猿谷倫史氏(埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター看護師)
「救急看護師・フライトナースの役割」
- ・今明秀氏(八戸市民病院院長・臨床研修センター所長)「ブランドになりたい」

地元埼玉の救急医療の最前線で活躍する看護師である猿谷氏に加え、救急医療界のカリスマと呼ばれる今氏にはるばる八戸からお越しいただき、講演会は大いに盛り上がりを見せた。学生から「救命救急の看護師・医師どちらもの話が聴け楽しかった」「誰かを救う素晴らしさ、厳しさを知り、医療に関わるのは簡単なことではないのだと改めて感じた」「自分がどんな看護をしたいのか目標・理想が見つかったような気がする」「体制づくりまでのポイントなども話して下さって、自分の夢を確立させるためのプロセスが学べた」など多くの感想が寄せられただけでなく、一般公開の観客からも大好評をいただいた。

「大東文化大学看護学ジャーナル」第2巻では、お二人のご講演を特集とすることとした。猿谷氏には講演録を元に加筆修正をいただき、今氏からは改め

てご執筆をいただいている。テーマの「救急医療における看護師の役割」のみならず、看護師のキャリアパスや地域貢献などにも視野が広がる内容となった。